

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達・子育て支援センター なかよしひろば		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 22日	～	令和 8年 1月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 22日	～	令和 8年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 16日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準以上の職員配置を行い、こどもの状態に応じた個別対応が可能であり、終礼や会議を通じた情報共有により、チームで統一した支援が行われている。	基準以上の職員配置を行うことで、こどもの発達段階やその日の体調・気持ちの変化に応じて、個別に関わる時間を十分に確保している。また、支援の中で気付いたこどもの変化や関わり方については、終礼や会議の場で必ず共有し、職員間で支援の方向性を確認することで、チーム全体で統一した支援が行えるよう意識している。会議に参加できなかった職員についても、記録を残し必ず確認する体制を整え、支援内容のばらつきが生じないように努めている。	今後は、終礼や会議で共有した内容をより具体的な支援方法として整理し、支援計画や記録に反映させることで、個別対応の質のさらなる向上を図っていく。 また、こどもの小さな変化や成功体験を職員間で積極的に共有し、支援の意図や根拠を言語化することで、経験年数に関わらず同じ視点で支援が行える体制づくりを進めていく。 加えて、職員一人ひとりの気付きや意見を尊重しながら、チーム全体で支援を振り返る機会を継続的に設け、より安定した統一支援につなげていきたい。
2	個別支援計画の作成・共有・モニタリングが適切に行われている。	個別支援計画の作成にあたっては、日々の支援記録や行動観察に加え、保護者や関係機関からの情報を丁寧に収集し、こどもの発達状況や生活全体を踏まえたアセスメントを行っている。 作成した個別支援計画については、職員間で共有し、終礼や会議の中で支援内容や関わり方を確認することで、計画に沿った統一した支援が行えるよう意識している。 また、支援の経過やこどもの変化については、日々の記録をもとに振り返りを行い、必要に応じて計画の見直しや修正につなげている。	今後は、モニタリングの場をより充実させ、支援目標の達成状況や課題を職員間で具体的に共有することで、個別支援計画の質の向上を図っていく。 また、こどもの小さな成長や変化を計画に反映させるため、支援の意図や評価をより分かりやすく記録し、次の支援につなげる仕組みづくりを進めていきたい。 加えて、保護者や関係機関との情報共有を継続しながら、計画作成・モニタリング・見直しの流れをより丁寧に、こども一人ひとりに合った支援の充実を図っていく。
3	保護者や関係機関と連携し、こどもを中心とした支援を行っている。	日頃から保護者とのコミュニケーションを大切にし、送迎時のやり取りやICT(コドモン)を活用した連絡帳、面談等を通して、家庭での様子や保護者の思いを丁寧に把握できるよう掛けている。 また、相談支援専門員や保育所・こども園、学校、医療機関等の関係機関と情報共有を行い、こどもの状況や支援の方向性について共通理解を図りながら、こどもを中心とした一貫性のある支援が行えるよう意識している。 必要に応じて担当者会議や支援会議を実施し、それぞれの立場からの意見を踏まえ、支援内容の検討や見直しにつなげている。	今後は、保護者や関係機関との連携の機会を計画的に設け、より早い段階で課題や変化に気付ける体制づくりを進めていく。 また、支援内容やこどもの成長の過程を分かりやすく共有することで、家庭や関係機関との共通理解をより深め、支援の方向性を統一していきたい。 加えて、就学や進級等の節目においても連携を強化し、こどもや保護者が安心して次のステージへ進めるよう、切れ目のない支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民との交流や地域に開かれた取組が十分とは言えない点	日々の支援業務を優先する中で、地域との交流や地域行事への参加について計画的に取り組むことが難しく、事業所内の支援に留まりがちになっている。	今後は、地域の公園や公共施設等の社会資源を活用した活動を取り入れ、こどもが地域の中で過ごす機会を意識的に増やしていく。 また、地域行事への参加や、小さな交流の機会から段階的に取り組み、地域に開かれた事業所づくりを進めていく。
2	外部研修への参加機会が限られている点	日常業務や人員配置の都合により、外部研修への参加に十分な時間を確保することが難しく、内部研修が中心となっている。	今後は、年間研修計画の中に外部研修を位置づけ、オンライン研修等も活用しながら参加しやすい環境を整えていく。 また、研修参加者が学んだ内容を職員全体に共有する機会を設け、事業所全体の支援の質の向上につなげていく。
3	一部設備面において、さらなる環境配慮が必要な点	現在の設備では概ね支援に支障はないものの、障害特性や年齢、発達段階の違いに応じた細やかな環境調整について、十分とは言えない部分がある。	こども一人ひとりの特性や支援場面を踏まえ、必要に応じて環境設定の見直しや設備の改善について検討を行っていく。 また、職員からの気付きや意見を取り入れながら、安全面や落ち着いて過ごせる環境づくりを継続的に進めていく。